

札幌市一般事務(福祉コース) キャリアラダー(案)

分類	概念	取得すべき専門性	第1段階(初任期)	第2段階(レベルアップ期)	第3段階(中堅期、主に中堅初期・中期)	第4段階(スーパーバイザー、主に中堅後期以降)
各段階の到達能力イメージ			助言を受けながら、基本的な事案の対応ができる	・基本的な対応は自立してできる ・助言を受けながら、困難な事案の対応ができる	・困難な事案への対応も自立してできる ・後輩職員や同僚職員に対し適切に助言できる	係員をスーパーバイズすることができる
一般事務(福祉コース)の基盤となる考え方	一般事務(福祉コース)として知っておくべき理念	・人権、多様性、平等、社会的公正、社会正義、意見表明や自己決定の尊重 ・権利擁護 ・倫理観の確立等	福祉分野における各理念について自らの経験も踏まえ説明することができる	・ジレンマや葛藤を自覚しながら、福祉分野における原理や理念を尊重して、業務を行うことができる	・ジレンマや葛藤と折り合いをつけながら、原理や理念を尊重して、業務を行うことができる ・後輩職員や同僚職員に対し福祉分野における各理念について適切に助言できる	原理や理念について、現実には引きずられることなく、高い理想や倫理観等に基づいて係員をスーパーバイズすることができる
	一般事務(福祉コース)として理解すべき知識	・ライフステージにおける心身の変化と健康課題 ・疾病と障害の成立と回復過程(障害・疾患特性、精神保健医療等知識) ・心の仕組みと機能(定型発達を妨げる知見(マルトリートメント、逆境体験等)、トラウマ、アタッチメント、バイアスによる認知思考の歪み等) ・人と環境との交互作用(システム理論、生態学理論、バイオ・サイコ・ソーシャルモデル、マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク) ・各分野で必要となる知識	助言を受けながら、以下の基本的な事項の対応ができる ・関連する分野の知識を学び続けることができる ・各知識や理論等に基づき支援展開を理解することができる	・取得すべき専門性に掲げる事項は自立して業務に活かすことができる ・助言を受けながら、困難な事案にも活かすことができる	・取得すべき専門性に掲げる事項は困難な事案にも一貫して活かすことができる ・後輩職員や同僚職員に対し、関連分野の知識やその活用について適切に助言できる	関連分野の各知識や理論等について、支援の各過程や実践において係員をスーパーバイズすることができる
	一般事務(福祉コース)として身につけるべき援助関係の土台	・支援対象者との関係性理解 ・自己覚知 ・感情のコントロール ・自己のメンタルヘルス ・ラポール ・コンフリクトマネジメント等	助言を受けながら、対象者とのような関係性にあるのかや、自己の状態等を把握できる	・対象者との関係性や自己の状態等に応じた適切な支援を実践できる	・困難な状況にあっても援助関係や自己の状態等を必要に応じて修正・改善できる ・後輩職員や同僚職員に対し援助関係の土台について適切に助言できる	援助関係の土台となる考え方について、係員をスーパーバイズすることができる
			・知識は協働の前提ともなり重要。同時にバイアスやエラーを最小にする姿勢も不可欠 ・自分(たち)の判断は間違っているかもしれないと常に検証できる知識獲得を目指す			
支援の過程	インテーク	インテークの意義、目的、方法	傾聴など面接に必要な基本的技術を習得し、助言を受けながら、的確に情報を収集できる	心理・精神領域の知識等も踏まえ、的確に情報を収集できる	・インテークを通じて、援助関係を円滑に形成できる ・後輩職員や同僚職員と一緒に面談を行い支援するなど適切に助言できる	インテークについて、係員をスーパーバイズすることができる
	アウトリーチ、スクリーニング	・アウトリーチやスクリーニングの意義、目的、方法 ・アウトリーチを必要とする対象やニーズの掘り起こし	助言を受けながら、アウトリーチやスクリーニングの意義について自らの経験を踏まえ説明することができる	援助が必要な対象者に気付く、発見し、支援につなげることができる	・困難な事案においても援助が必要な対象者を見逃さず必要な支援につなげることできる ・後輩職員や同僚職員に対しアウトリーチやスクリーニングについて適切に助言できる	アウトリーチやスクリーニングについて、係員をスーパーバイズすることができる
	アセスメント	・アセスメントの意義、目的、方法 ・他の職種、職域、機関と多角的包括的なアセスメントを統合する技術	助言を受けながら、収集した情報をもとに、対象者が置かれている状況を適切に見立てることができる	収集した情報をもとに、対象者が置かれている状況を適切に見立てることができる、絶えずその見立てが有効であるか自省することができる	・アセスメントの方法として活用できるレポートリーを多く持っている ・後輩職員や同僚職員と一緒にアセスメントを行うなど適切に助言することができる	アセスメントについて、係員をスーパーバイズすることができる
	記録	・個人情報の管理記録方法、文体(叙述体、要約体、説明体等) ・項目式(フェイスシート等) ・図表式(ジェノグラム、エコマップ等) ・多機関協働に活用できる記録 ・支援内容を評価、総括するときに応用できる記録	・助言を受けながら、個人情報管理し、主観的事実、客観的事実、アセスメント、援助方針等を区別して記録することができる ・助言を受けながら、ジェノグラムやエコマップ等を作成できる	・個人情報を適切に管理記録し、主観的事実、客観的事実、援助方針等を区別して記録することができる ・ジェノグラムやエコマップ等を広がりを持って作成できる ・後輩職員や同僚職員に対し記録や図表を適切に助言できる	・個人情報やセンシティブな情報を適切に管理記録し、主観的事実、客観的事実、アセスメント、援助方針等を区別し、分かりやすく簡潔に記録することができる ・より分かりやすく支援に役立つジェノグラムやエコマップ等を作成できる ・後輩職員や同僚職員に対し記録や図表を適切に助言できる	記録や図表について、係員をスーパーバイズすることができる
	プランニング、支援実施	プランニングや支援の意義、目的、方法	助言を受けながら、適切な援助方針を立て、それに基づいた支援を行うことができる	対象者に適合した援助方針を立て、同意に基づいた支援を行うことができる	・困難な事例においても活用できる援助方針に基づく支援のアイデアを多く持っている ・後輩職員や同僚職員と一緒に援助方針を検討し、有効なプランニングに基づく支援ができる	プランニングに基づいた支援について、係員をスーパーバイズすることができる
	面接技術	・面接の意義、目的、方法 ・面接の場面と構造 ・面接の各種技法	助言を受け、面接の目的、方法、構造、技法を意識しながら面接をすることができ、技術向上のため最新の知見を学ぶ姿勢等を持つこともできる	面接の目的、方法、構造、技法を意識しながら面接をすることができる	・援助関係や面接の目的に応じて活用できる面接法のレポートリーを多く持っている ・後輩職員や同僚職員に対し面接技術について適切に助言できる	面接技術について、係員をスーパーバイズすることができる
	カンファレンス、事例検討	・カンファレンスや事例検討の意義、目的 ・カンファレンスや事例検討の進行	助言を受けながら、カンファレンスや事例検討を運営することができる	カンファレンスや事例検討を運営することができる	・カンファレンスや事例検討を円滑に運営できるほか、事例分析も行うことができる ・後輩職員や同僚職員に対しカンファレンスや事例検討について適切に助言できる	カンファレンスや事例検討について、係員をスーパーバイズすることができる
	モニタリング	・モニタリングの意義、目的、効果測定	助言を受けながら、援助方針に基づく支援を行うことができているかどうか対象者と確認し、評価と再アセスメントを行うことができる	援助方針に基づく支援を行うことができているかどうか対象者と確認し、評価と再アセスメントを行うことができる	・モニタリングの方法として活用できるレポートリーを多く持っている ・後輩職員や同僚職員と一緒に援助方針に基づく支援ができているか確認するなど適切に助言できる	モニタリングについて、係員をスーパーバイズすることができる

分類	概念	取得すべき専門性	第1段階(初任期)	第2段階(レベルアップ期)	第3段階(中堅期、主に中堅初期・中期)	第4段階(スーパーバイザー、主に中堅後期以降)
支援の過程	支援の終結、事後の評価・ケア	支援の終結と事後の評価やケアの目的、方法	助言を受けながら、援助方針で設定した目標が達成できたかどうかを評価し、アフターケアも視野に支援を終結させることができる	援助方針で設定した目標が達成できたかどうかを評価し、再発防止に向けたアフターケアの確認を担保しながら、支援を終結させることができる	・支援終結後に関わることでできる社会資源等の情報を豊富に持っており、再発防止を確保した支援ができる ・後輩職員や同僚職員と一緒に援助方針で設定した目標が達成できたかどうかを確認することができる	支援の終結や事後の評価・ケアについて、係員をスーパーバイズすることができる
スーパービジョン とコンサルテーション	スーパービジョンの意義、目的、方法	・スーパーバイザーとスーパーバイザーの関係 ・スーパービジョンの機能 ・スーパービジョンの形態と方法	・自身が困っていることに気づき、係長等に相談することができる ・スーパーバイズを踏まえて、業務を行うことができる	援助関係とスーパービジョン関係の関係性を自覚し、支援に活用できる	・ピア・スーパービジョンを主宰できるようにする ・後輩職員や同僚職員に対しスーパービジョンの活用について適切に助言できる	係員の状況に適合する形で、スーパービジョンで求められる機能を提供することができる
	コンサルテーションの意義、目的、方法	・コンサルタントとコンサルティーマの関係 ・コンサルテーションの方法	助言を受けながら、コンサルテーションを活用し、得られた情報を参考に、業務を行うことができる	コンサルテーションを活用し、得られた情報を参考に、業務を行うことができる	・コンサルテーション先となりうる情報を豊富に持っており活用できる ・後輩職員や同僚職員に対しコンサルテーションの活用について適切に助言できる	コンサルテーションを有効に活用するよう、係員をスーパーバイズすることができる
ネットワークの形成	ネットワーキング	・ネットワーキングの意義、目的、方法、セーフティネットの構築とネットワーキング ・家族や住民、サービス提供者間のネットワーキング ・重層的な範囲(マイクロ・メゾ・マクロ)におけるネットワーキング ・多様な分野の支援機関とのネットワーキング	助言を受けながら、対象者を取り巻く課題解決のため、身近な地域において活動や相談ができる場等とのネットワークを活用して支援することができる	対象者を取り巻く課題解決のため、身近な地域において活動や相談ができる場等とのネットワークを活用して、有効な支援をすることができる	・対象者を取り巻く課題解決のため、身近な地域において活動や相談ができる場等との既存のネットワークを活用して有効な支援をすることができ、将来も見据えて、新たなネットワークを構築することもできる ・後輩職員や同僚職員に対しネットワーキングについて適切に助言できる	ネットワーキングについて、係員をスーパーバイズすることができる
	コーディネーション	コーディネーションの意義、目的、方法	助言を受けながら、対象者本人の視点に立ち、尊厳が保持されるよう、多職種協働やサービスの調整といったコーディネーションにより、質の高い支援を実現することができる	対象者本人の視点に立ち、尊厳が保持されるよう、多職種協働やサービスの調整といったコーディネーションにより、質の高い支援を実現することができる	・対象者本人の視点に立ち、尊厳が保持されるよう、多職種協働やサービスの調整といったコーディネーションにより、質の高い支援を実現することができる ・後輩職員や同僚職員に対しコーディネーションについて適切に助言できる	コーディネーションについて、係員をスーパーバイズすることができる
社会資源	社会資源の活用・調整・開発	・社会資源の活用、調整、開発の意義、目的、方法 ・ニーズの集約、提言、計画策定、実施、評価	助言を受けながら、支援対象に必要な社会資源を発見し、活用に向けた調整をすることができる	支援対象に必要な社会資源を十分に活用することができる	・不足する社会資源を課題として認識し、開発などの解決策を検討し実施することができる ・後輩職員や同僚職員に対し社会資源の活用等について適切に助言できる	社会資源の活用、調整、開発について、係員をスーパーバイズすることができる
政策立案	市における福祉課題の解決	社会の変化や複合化・複雑化した福祉ニーズ等に即した政策立案能力(予算要求、議会対応等の能力含む)	助言を受けながら、福祉現場の経験から実感した不足する社会資源、社会の変化、福祉ニーズ等に基づく施策化の必要性に気が付くことができる	不足する社会資源、社会の変化、複雑化した福祉ニーズに対応した解決策を福祉現場の経験を踏まえ検討できる	・市における福祉課題解決のための政策を既存事業の活用や再編の視点を含め、福祉現場の経験、国際的な動向、他都市の事例等の研究を踏まえ立案できる ・後輩職員や同僚職員に対し政策立案について適切に助言できる	・政策立案にあたって、係員をスーパーバイズすることができる ・市における福祉課題の解決のための効果的な政策を中長期的視点から立案し実現のために必要な調整をすることができる
総合的かつ包括的な支援	総合的かつ包括的な支援の考え方	・多様化、複雑化した生活課題への対応 ・今日的な地域福祉課題への対応 ・分野、領域を横断する支援	助言を受けながら、多様化、複雑化した生活課題あるいは今日的な地域福祉課題という視点で、対象者を総合的かつ包括的にとらえて、支援をすることができる	多様化、複雑化した生活課題あるいは今日的な地域福祉課題という視点で、対象者を総合的にとらえて、支援をすることができる	・対象者が暮らす地域を基盤に個別課題を超えたひろがりを持つ視点で、総合的かつ包括的な支援に活用できるアイデアを多く持っている ・後輩職員や同僚職員に対し総合的かつ包括的な支援について適切に助言できる	総合的かつ包括的な支援について、係員をスーパーバイズすることができる
	家族支援	・家族が抱える複合的な生活課題への対応 ・家族支援の目的、方法、多角的視点	助言を受けながら、対象者の家族を多角的にとらえて、事例に応じて構造や関係などを理解し支援をすることができる	対象者の家族を多角的にとらえて、事例に応じて構造や関係などを理解し支援をすることができる	・対象者の家族を多角的にとらえて、事例に応じて構造や関係などを理解・分析し、早期支援や予防的支援のために活用できるアイデアを多く持っている ・後輩職員や同僚職員に対し家族支援について適切に助言できる	家族支援について、係員をスーパーバイズすることができる
	地域支援	・地域が抱える課題への対応 ・多機関協働 ・地域住民との協働 ・地域アセスメント	助言を受けながら、対象者の居住する地域課題や特性を分析することができる	対象者の居住する地域課題や特性を踏まえて、地域の方を活用し又は引き出す支援をすることができる	・対象者の居住する地域課題や特性を踏まえた地域支援の視点とともに早期支援や予防的支援のために活用できるアイデアを多く持っている ・後輩職員や同僚職員に対し地域支援について適切に助言できる	地域支援について、係員をスーパーバイズすることができる
リスクマネジメント	福祉分野におけるリスクマネジメント、ヒューマンエラーの活用	・リスクマネジメントや危機対応の意義、目的、方法、予防的対応 ・ヒューマンエラー(失敗)の共有、活用の意義、目的、方法、バイアス把握	・助言を受けながら、リスクが生じる可能性を意識でき、周囲に支援を求めることができる ・支援に係るヒューマンエラー(失敗)に気が付き、速やかに同僚、先輩、上司といった周囲と共有できる	・リスクが顕在化した状況を的確に把握したうえで対応ができる ・リスクが生じる予兆もいち早く掴むことができる ・支援に係るヒューマンエラー(失敗)について、課題や対応策とともに、速やかに周囲と共有できる	・リスクが顕在化した状況を迅速かつ的確に把握し、組織としての対応を図ることができる ・予防的対応にも早く掴むことができる ・支援に係るヒューマンエラー(失敗)について、課題や対応策とともに、速やかに周囲と共有できる	リスクマネジメント、ヒューマンエラー(失敗)の活用について、係員をスーパーバイズすることができる
自己課題/テーマ設定枠	上記項目以外で、自らのキャリアの中で向上させていきたい能力や専門性がある場合、そのテーマを自ら設定するもの(例：心理分野) ※第1段階～第4段階の到達能力イメージは一般的な例 ※複数のテーマを設定する場合 は別紙可		助言を受けながら、基本的な事案の対応ができる	・基本的な対応は自立してできる ・助言を受けながら、困難な事案の対応ができる	・困難な事案への対応も自立してできる ・後輩職員や同僚職員に対し適切に助言できる	係員をスーパーバイズすることができる